

No. 7：最大級旅行博で本県PR

9月25日は香港を含む中華圏では中秋節。月見をしながら家族や友人とのだんらんを楽しむ伝統的な日で、各地で華やかなランタン展示も行われる。休日ではないが、午後を休業とする企業も少なくないそうだ。

その25日から27日にかけて、香港最大級の旅行博「香港ホリデー&トラベルエキスポ」が開催され、本県は初めてPRブースを出展した。比較的新しい旅行博だが、香港内外から大手旅行会社やオンライン・トラベル・エージェンツ（OTA）など100を超えるブースが出展し、延べ25万人以上が来場する勢いのあるイベントとなっている。

本県は日本エリアに東武鉄道と隣接する形でブースを構え、県内の魅力を幅広くPRした。多くの方に足を止めてもらい、観光パンフレットのほか、日本酒やイチゴなど県産品を紹介するために用意した資料は全てなくなった。温泉やグルメ、交通アクセスなどに関する質問も数多く寄せられ、関心の高さを改めて実感する機会となった。



【香港ホリデー&トラベルエキスポ本県ブースの様子＝9月25日、香港・湾仔】

そんな中、ある香港人が本県ブースを訪ねてきてくれた。かつて通訳補助をお願いした香港大学の学生だったが、卒業して訪日旅行商品も多く扱う現地大手旅行会社に就職したという。授業の課題で本県を取り上げたこともある“栃木通”だ。現在は研修中とのことで、将来は日本担当となって本県への旅行商品を数多く企画してほしいとお願いして見送った。

不思議な縁を感じたのは、その少し前の9月中旬に香港大で開催されたキャリアフェアを視察したからだった。会期中、大学内の講堂には計150社超の企業がブースを構え、延べ8千人以上の学生や卒業生が集まる。私が訪れた日も、金融やコンサルなど国際的な企業や大手日系企業が出展し、大変な熱気に包まれていた。

香港を代表する大学の一つであり、こうした若い世代と関わりを深めることは重要だろう。しかし卒業生の新卒平均年収が800万円と聞けば、その難しさもうかがえる。何か接点を持ってないかと考えながら会場を後にした直後、旅行博でその若者と再会した。

就職という形でなくとも、観光や留学、仕事などを通じて本県と関わる人が増えれば、今回のような縁が生まれるかもしれない。そうした縁が将来の交流や誘客、ビジネスにつながることも期待しながら、これからも香港で栃木ファンを増やしていきたい。